



2012年1月6日

一般財団法人日本ガス機器検査協会

JIA-QAセンター(一般財団法人日本ガス機器検査協会内に設けられたマネジメントシステム認証機関：理事長：木村 文彦)は、2011年12月16日に、公益財団法人日本適合性認定協会(JAB)の第69回マネジメントシステム認定委員会において、国内のエネルギーマネジメントシステム認証機関として初めて認定を受け、2012年1月10日に認定証を授与されます。

JABがエネルギーマネジメントシステム(ISO 50001)の認証機関を認定したのは、今回が初めてで、JIA-QAセンターは、その第一陣として認定を受けました。2012年1月6日現在、JABから認定を受けた認証機関は、JIA-QAセンターを含む2機関です。(他の1機関は外資系認証機関)

■エネルギーマネジメントシステム(ISO 50001)概要

エネルギーマネジメントシステム(ISO 50001)は、組織(事業所、企業)がエネルギー効率、使用量等を含むエネルギーパフォーマンスを継続的に改善するためのマネジメントシステムであり、この導入により地球温暖化防止というグローバルな課題に応えるだけでなくエネルギーコストの低減効果が期待されています。また、業種又は規模によらず全ての組織(事業所、企業)に適用することが可能であり、広い分野において導入されることが期待されています。

■ISO 50001の制定経緯

地球温暖化防止、エネルギー需給の逼迫等の問題への対策として、エネルギーを体系的に管理する方法(システム)が求められるようになり、2007年11月に米国及びブラジルから、米国独自のエネルギーマネジメントシステム規格(ANSI/MSE 2000:2008)を基にした国際規格の案が提出され、検討されてきました。東日本大震災に伴う電力需給の逼迫への対策の一つとして、日本政府の要望によって、予定より前倒しされ、2011年6月15日に発行されました。



■制度のメリット

- ・エネルギーパフォーマンスの改善
- ・エネルギーコストの削減、温室効果ガスの排出量削減
- ・企業の信頼性の向上、企業価値・イメージの向上
- ・政府調達へ応募した際の評価における加点
- ・取引先(海外企業を含む)の要求の達成

■環境マネジメントシステム(ISO 14001)との違い

ISO 50001は、ISO 14001等の既存のマネジメントシステム規格と容易に統合した一つのマネジメントシステムとすることができるほど、共通する部分が多くありますが、次の点等に差があります。

ISO 14001では、環境に関すること全般を対象とし、リスクマネジメントにより重点を置いています。一方、ISO 50001では、エネルギーに特化しエネルギーパフォーマンスの改善により焦点を当て、定量的なデータに基づく状況の把握及び分析 —— 具体的には以下に示す「エネルギーレビュー」の実施、「エネルギーベースライン」及び「エネルギーパフォーマンス指標」の設定 —— を求めています。目標が数字で設定されるため、成果の評価もより明確になります。

「エネルギーレビュー」

組織(事業所、企業)のエネルギーの使用状況を把握するため、過去及び現在のエネルギーの使用及び使用量を測定し、分析することにより、著しいエネルギー使用(使用量が多い又は改善の可能性が高いエネルギーの使用)に関係する設備、装置及びシステムを特定する。その後も定期的に分析を実施し、エネルギーパフォーマンスを評価する。

「エネルギーベースライン」

エネルギーレビューの情報をを用い、後にエネルギー使用状況を評価するための基準値(出発点)となる「エネルギーベースライン」を設定する。

「エネルギーパフォーマンス指標」

「エネルギーベースライン」と比較し、後にエネルギー使用状況を評価するための定量的な値又は尺度を「エネルギーパフォーマンス指標」として設定する。

■省エネ法との違い

双方に共通する事項も多くありますが、ISO 50001は、省エネ法と比較し、次の点に特徴があります。

- ・全ての業種を対象とする。組織(事業所、企業)の規模を問わない。(省エネ法で主に対



- 象となるのは、原油換算エネルギー使用量が1,500kℓ以上の事業者(企業))
- ・対象とする範囲・境界及び評価方法を、組織(事業所、企業)の考え方により柔軟に決められる。
 - ・マネジメントシステムにおける経営者の関与(役割)を明確にしている。
 - ・内部監査の実施によるマネジメントシステムの自発的なチェック機能を持つ。

■お問い合わせ先

エネルギーマネジメントシステム(ISO 50001)の認証取得に関するご相談は、JIA-QAセンターまでお問い合わせください。

一般財団法人日本ガス機器検査協会
JIA-QAセンター 企画情報部 企画広報グループ
〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目4番10号
TEL : 03-5570-9561 FAX : 03-5570-9566

【補足1】 JIA-QAセンター

JIA-QAセンターは、一般財団法人日本ガス機器検査協会(JIA)内に設置された認証機関です。本財団は、1967年にガス機器の安全性を検査する第三者機関として設立された認証機関であり、ガス機器等の検査で培った認証の知識、技能を核に事業を拡大し、ISOマネジメントシステム認証を行う機関として、日本適合性認定協会(JAB)から国内で4番目に認定を取得しています。品質、環境、食品安全、労働安全衛生の各マネジメントシステムの認証を行い、最近では、エネルギーマネジメントシステム(ISO 50001)、食品システム認証(FSSC 22000)に事業を拡大し、JABに認定された47機関の認証件数56,943(品質・環境計、2011年12月)の中で9番目のシェア占めています。製品の安全性の検証業務で培った“技術専門家集団”として、“現場主義”を徹底する審査を実施しています。

財団のその他の事業としては、土壌調査、森林認証CoC、温室効果ガス排出量検証などの環境分野にも進出し、「安全から地球環境までトータルソリューションの提供」を実現することを目標としています。

【補足2】 公益財団法人日本適合性認定協会(JAB)

「公益財団法人 日本適合性認定協会(略称 JAB)」は、適合性評価制度全般に関わる認定機関として、平成5年11月、品質マネジメントシステム認証制度における認定機関「財団法人 日本品質システム審査登録認定協会」として、日本工業標準調査会の答申に基づき、発足した純民間の非営利法人です。マネジメントシステム認証機関、製品認証機関、温室



効果ガス妥当性確認・検証機関、試験所及び検査機関の認定等を行うことにより、日本における適合性評価制度および諸外国との相互承認体制の確立・発展、産業経済の健全な発展に寄与することを目的としています。

[参考] 関連事業

温室効果ガス (GHG) 排出量検証(東京都総量削減義務と排出量取引制度)

JIAの検証実績は表のとおりであり、対象となる事業所全体の約一割の検証を行っています。昨年度は、区分番号1(特定ガス・基準量)において、地域冷暖房事業所の半数、区分番号6(トップレベル事業所等(工場等)の認定基準への適合の検証)において、認定された全工場等の半数の検証を実施しています。

表 JIAの検証実績 (事業所数)

区分番号	区分名称	2010年度実施	2011年度実施
1	特定ガス・基準量	115	129
2	都内外削減量	0	2
5	優良事業所基準(第1区分):建築物等 (トップレベル事業所等)	3	2
6	優良事業所基準(第2区分):工場等 (トップレベル事業所等)	3	1
	計	121	134

カーボンフットプリント(GFP)

国の環境関連事業に対しても、私たちがより貢献できるものを選択して、積極的に参加させて頂く所存です。2011年度は、環境ラベル(タイプⅢ)の経験を活かし、経済産業省から社団法人産業環境管理協会が受託している、「カーボンフットプリント制度試行事業」の「検証機関による個品別検証に関する実証実験」に国内系検証機関(2機関)の1つとして参加しています。